

大城ひかるのベトナム

通信

-23-

シンチャオ
(Xin chào)
おきなわ



筆者の独自調査によると、女性の2人連れは老若問わず手をつないでいる確率が高い (筆者撮影)

は、「何で？」と頭の中がクエスチョンマークになりました。少し仲良くなる時、昼食に一緒に出掛けるとき、腕をまわされたり、久しぶりにあったときに投げキッスをしてくる同僚が

ある日、デスクに座っていたときです。若い女性の先生が歩いてきて、隣の席の女性同僚の頬にキスをしました。2人は笑いあってハグをします。思わず「何してるんですか!」とツツコミを入れたら、「好きだから、あいさつしました」と2人とも抱き合いながらニコニコ。「職場

でありえない」「あり」と、周りの先生方を巻き込み大笑いになりました。

こちらに来てすぐ気づいたことが「人との距離感が近い」ということです。通勤途中、ノンラー(ベトナム伝統帽子)をかぶった年配の2人のご婦人が手をつないで歩いているのを初めて見た時は、「何で？」と

距離感の近さに戸惑う

います、もちろん両者と女性です。皆さまはどうか分かりませんが、私の場合、子どもの頃はともかく少し大きくなってからは両親とさえ体に触れたり、手をつないだ記憶がありませんから、このようなスキンシップへの正しい対処の仕方が分かりません。まわされた腕は、道を渡るときにさりげなく解くようにし、投げキッスはかなり慣れてからですが、つかんで地面に投げつけ、タバコの火をのみ消すようなしぐさをしてみました。すると「ひどい」とは言いますが、次に会っても同じことをしますし、デスクの後ろからキスをするふりをしたりもします。

女性だけではなく、男子学生との距離感もとても近くてびっくりします。実習生のクラスに、高校を卒業したばかりのマスケット的存在の男子学生がいました。みんなが彼をかわいがっていることは知っていました。あるとき急に隣に座っている男子学生の腕に頭を乗せたのです。もちろん授業中ですが、隣の子は当たり前のように彼の髪の毛を撫で始めました。「何してるんですか!」と私が大声を出したのは言うまでもありません。

「歩く時、腰に手をまわす」「髪の毛を触る」「脇腹の肉をつかむ」などは自然なのだそうです。友だちですら、このようにボディタッチが多いのですから、家族の密着度は想像に難くないでしょう。

授業の最後に、彼らの先輩女子学生の話をしました。とてもかわいく人気もありましたが、彼女は友だちと話をする時、男子学生でも顔がくっつきそうなら近いのです。日本人はそのような距離感に慣れていないので、「日本では誤解されないように気をつけて」と上司がやんわり注意したことを紹介しました。そして反対にエンジニアには「日本へ行くとき日本人が距離を取るからといって寂しく思わないように。日本の普通ですから」と授業を締めくくりました。